

お鍬山 植物たより (H27. 12. 14)

お鍬山は師走とはいえ、タカノツメの黄葉が素晴らしく、朝日に浴びると透けて見えるようです。そんな中、コナラの落ち葉を踏みしめての散歩は格別です。フユシャクガの乱舞が目立ちます。全国の雑木林で普通にみられる、その名のとおり冬に活動する蛾です。多くの種は夜行性のようですが、お鍬山は昼行性の種らしく、散歩しているとよく見かけます。親指の頭ほどの小ささで、地味でも



黄葉しているタカノツメとコナラの落ち葉

あるためにコナラの落ち葉にとまっていると見分けが付きません。しかし、舞っている姿は蛾のイメージと違い水墨画を見るような美しさがあります。

正月ももうすぐです。縁起物として名の知られている、センリョウがお鍬山では群生しているところがあります。マンリョウはお鍬山の各所で見る事ができますが、群生はしていません。センリョウは赤い実を葉の上につけますが、



センリョウ

マンリョウは下に赤い実をつけます。何故かお鍬山に限らず、マンリョウはよく見かけますが、センリョウは見る機会は少ないような気がします。何もないような冬の散歩には赤い実をつけたセンリョウやマンリョウをみるとほっとした気分になります。(H25.12.10 掲載)



ウラジロ

同じ縁起物のウラジロは遊歩道沿いに3か所ほど群生しています。コシダと似ているので、昨今の正月の飾り物としてウラジロの代用としてコシダが使われてもいます。自生のウラジロは大きいので飾り物としては不向きのようなようです。コシダは大きさが手頃のため飾り物として利用するにはぴったりともいえます。そのコシダはお鍬山の各所で見られます。(H26.11.15 掲載)